

わがまちの戦争の記憶

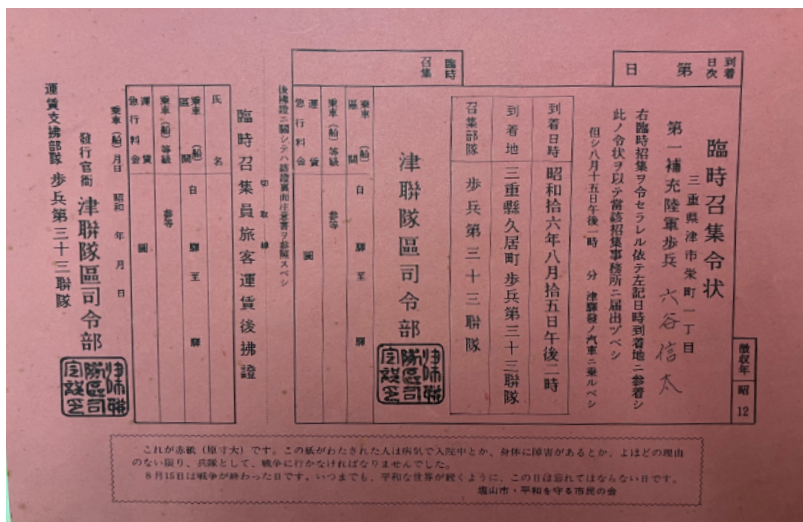
今年2025年は日本の終戦から80年という節目を迎えました。今回は太平洋戦争の歴史を振り返るとともに、町内に残る戦時中の暮らしや教育などに関する資料を紹介します。「わがまちの戦争の記憶」を次世代に継承し、平和の尊さについて共に考える機会になれば幸いです。

●なぜ戦争は始まったのか？

昭和12年（1937）、中国北京郊外で起きた盧溝橋事件をきっかけに日本が中国と戦争を始めるとアメリカなどの国が日本に石油などの資源を売らなくなりました。石油がないと工場や船、飛行機が動かさなくなります。国力が弱まることをおそれた日本は、当時ヨーロッパの国々の植民地であった東南アジアを占領して石油を入手しようとしていました。その行動によってアメリカやイギリスとの戦争が本格的に始まり、太平洋戦争へとつながっていきました。

●召集令状(赤紙)

戦前の兵役制度に基づいて兵役に就くことを命じた通知です。全国の男子満17歳から40歳までが招集の対象で、通知が赤い紙に印刷されていたため「赤紙」と呼ばれるようになりました。当時のハガキの価格が一銭五厘（現在の数十円～数百円の価値）だったので、兵隊は一銭五厘の命ともいわれました。



臨時召集令状(身延町歴史民俗資料館所蔵)

●日向富士雄先生の戦争体験

身延町車田出身の故・日向富士雄先生は昭和13年(1938)に召集され、中国やビルマ(現在のミャンマー)の戦線に加わり、苦難の末に昭和22年(1947)に復員されました。戦後は峡南高校や身延高校で教鞭をとられ、地域住民からは「小鳥のおじさん」としても親しまれ、ブッポウソウ(※)の保護においても功績を残されました。先生は手記の中で、「何百キロメートルもの敗走、傷つくのは今日か明日かと思いながらの戦い、この生と死の狭間で学んだものは“人は助け合わねば生きていけない”ということだった。」と記しています。

※絶滅危惧種の渡り鳥。現在の町のシンボルの一つ。



出征時の日向先生

日向翠 2002『三光鳥 日向富士雄追悼遺稿集』より

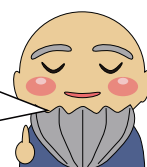
太平洋戦争のことを大東亜戦争、アジア・太平洋戦争とも呼ぶことがあるんじゃない。それぞれの呼び方にどんな意味があるのか考えてほしいのう。

●太平洋戦争関連年表（※表中の番号①～⑱は3ページの地図中の番号と対応しています。）

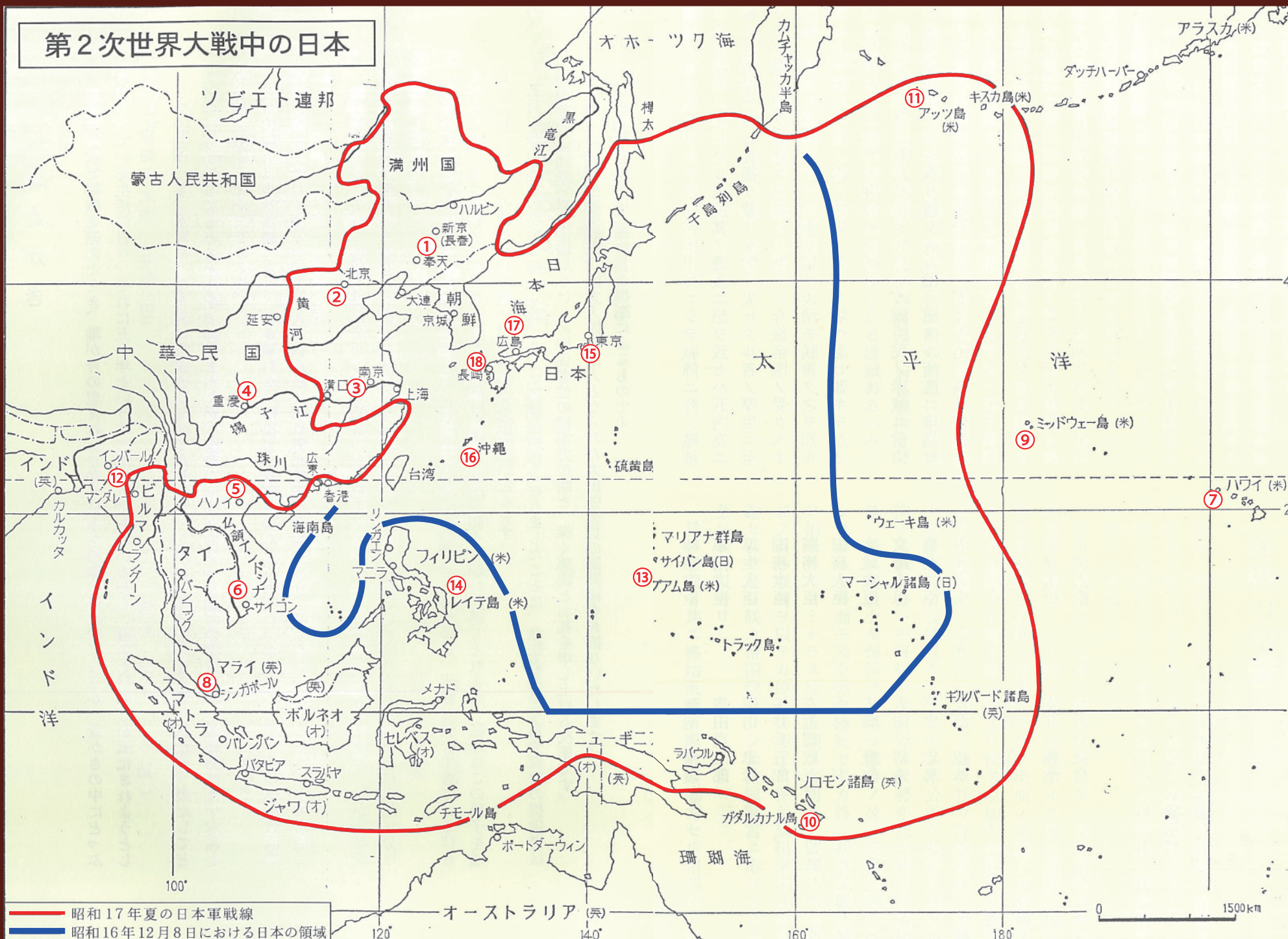
年		日本と世界の動き	山梨の動き
和暦	西暦		
昭和6	1931	9月 柳条湖事件（満州事変始まる）① 12月 中国、国際連盟に対日制裁を要請	4月 中央線甲府～新宿間電化実現 12月 甲府連隊の一部満州移住
昭和7	1932	3月「満州国」成立 5月 5.15事件 9月 日満議定書調印 10月 リットン報告書	
昭和8	1933	1月 独、ナチス政権成立 3月 日本、国際連盟脱退 米、ニューディール政策	7月 初の満州移民北満に入植（以後1943年まで連年移民送り出す）
昭和9	1934	3月 満州国帝政実施（皇帝溥儀）9月 ソ連、国際連盟加入	9月 山梨飛行場が玉簾村（現 甲斐市）に完成
昭和10	1935	2月 天皇機関説問題起こる 8月 中国共産党、8.1宣言 10月 伊軍、エチオピアに侵入	4月 山梨飛行学校設置 11月 国鉄小海線全通
昭和11	1936	2月 2.26事件起こる 11月 日独防共協定成立 12月 西安事件起こる	2月 甲府連隊東京警備に出動 5月 甲府連隊満州北安へ移駐
昭和12	1937	5月 文部省「国体の本義」を全国に配布 7月 盧溝橋で日中両軍衝突（日中全面戦争始まる）② 9月 第二次国共合作成立 11月 日独伊3国防共協定成立 12月 日本軍南京占領（南京事件）③	3月 満州竜鑑門で甲府連隊町田隊全滅 9月 歩兵149連隊編成 中国上海戦線へ
昭和13	1938	4月 国家総動員法公布 5月 日本軍重慶爆撃④ 7月 張鼓峰で日ソ両軍衝突 9月 ミュンヘン会談 10月 日本軍、広東・武漢三鎮を占領	1月 富士北麓県有地陸軍演習場に 第1次満蒙开拓青少年義勇軍出発
昭和14	1939	5月 ノモンハン事件始まる 国民徴用令公布 8月 独ソ不可侵条約成立 9月 ノモンハン停戦協定成立 独軍ポーランド侵入 （第2次世界大戦開始）	1月 陸軍甲府飛行場完成 7月 県庁に総動員課新設
昭和15	1940	6月 伊、英仏に宣戦布告 パリ陥落 仏、独に降伏 9月 日本軍、北部仏印に進駐⑤ 日独伊三国同盟成立 10月 大政翼賛会発足 11月 紀元2600年祝賀式典挙行	2月 豊村（現 南アルプス市）分村移民が満州国四道河 に入植 8月 県下で木炭・マッチ・砂糖切符制実施
昭和16	1941	4月 日ソ中立条約成立 6月 独ソ戦始まる 7月 南部仏印進駐を決定⑥ 8月 米、対日石油輸出を全面 停止 米英、大西洋憲章を発表 金属類回収令 10月 東条内閣成立 12月 御前会議、対米英蘭開戦を決定 日本軍、マレー半島・ハワイ真珠湾奇襲⑦ 米英に宣戦布告	5月 富士身延鉄道が国鉄身延線となる 8月 甲府市内の児童、市内の農家へ勤労動員
昭和17	1942	2月 シンガポール占領、英軍降伏⑧ 4月 バターン半島占領、米比軍降伏 6月 ミッドウェイ海戦⑨ 日本軍、空母4隻を失う大敗 8月 米、マンハッタン計画（原子爆弾開発）開始	1月 翼賛壮年団結成式 2月 味噌醤油等配給統制規則施行
昭和18	1943	2月 日本軍、ガダルカナル島撤退⑩ スターリングラードの独軍降伏 5月 アッツ島の日本軍玉砕⑪ 9月 伊、無条件降伏 10月 学徒出陣壮行会 11月 米英中首脳、カイロ会談	1月 田富村（現 中央市）に立川飛行機の疎開工場開設 5月 禾生村（現 都留市）出身のアッツ島守備隊山崎 大佐ら全滅⑪ 11月 未就職女子で勤労挺身隊を編成
昭和19	1944	6月 連合軍、ソルマンディー上陸 米軍、サイパン島上陸 7月 インパール作戦中止⑫ 8月 米軍、グアム島・テニアン島上陸⑬ 学童集団疎開開始 10月 米軍、レイテ島上陸、レイテ戦始まる⑭	3月 山梨県松根油集荷取締規則制定 6月 酒石酸生産のため葡萄の生食禁止 7月 県外の工場への男女学徒勤労動員開始 8月 疎開児童第1陣入県
昭和20	1945	1月 ワルシャワ解放 2月 米英ソ首脳、ヤルタ会談 3月 東京大空襲⑮ 4月 米軍、沖縄上陸⑯ 5月 独軍、無条件降伏 6月 沖縄守備隊全滅 7月 米英ソ首脳、ポツダム会談 8月 広島・長崎に原爆投下⑰⑱ ソ連対日参戦 御前会議、ポツダム宣言受諾を決定 戦争終結の玉音放送 第二次世界大戦終る 9月 降伏文書に調印	1月 レイテ戦で甲府連隊ほぼ全滅⑭ 4月 七里岩地下壕工事、ロタコ工事始まる 7月 甲府大空襲 米鬼撃滅県民大会 8月 大月、富士吉田に空襲

日：日本 中：中国 独：ドイツ 米：アメリカ 伊：イタリア ソ：ソ連
英：イギリス 印：インドシナ 仏：フランス 蘭：オランダ 比：フィリピン
参考引用文献：山梨日日新聞 2000『山梨の戦争遺跡』

戦争は一方的に被害を受けた側、加えた側に分けられるものではないんじやよ。
今後同じ過ちを繰り返さないためにも、「加害」の歴史についても目を向けて、
その背景や要因について考えてほしいのう。



第2次世界大戦中の日本





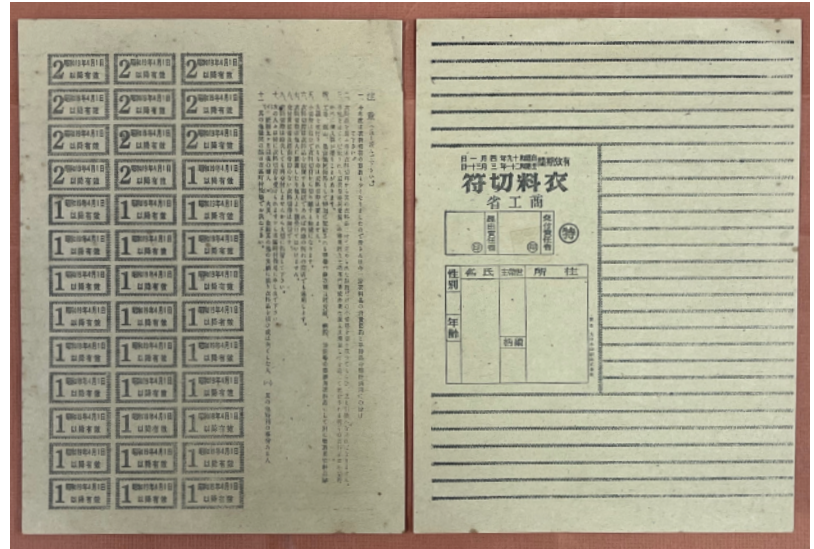
(身延町歴史民俗資料館所蔵)

●^{とうかかんせい}灯火管制時使用の電灯笠

敵国の飛行機が夜半に町の灯りを目印に爆撃してくるのを防ぐため、家庭でも灯りが外にもれないように、左の写真のような笠を電灯につけて暮らしました。灯りが外にもれていると、見回りの人に注意されたり、近所から通報されたりしました。

●衣料切符

戦時中は物資をより多く軍隊にまわすため、国民の生活用品も制限され、国は衣料品の点数切符制を実施しました。一年間で使える点数を都市部で100点、郡部では80点としました。背広三揃^{せびろみつぞえ}50点、国民服32点、ブラウス8点、パンツ4点といった具合に分けられており、切符の売買は厳しく罰せられました。



(身延町歴史民俗資料館所蔵)

●^{おの きんろく}丸山公園小野金六の銅像

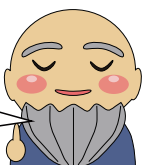
飛行機や鉄砲など兵器の製造には大量の金属製品が必要ですが、資源の少ない日本では戦争が長引くにつれて金属が不足し、食器などの家庭用品やお寺の鐘などまでも戦争に利用しようとする動きが強まりました。^{つうち}角打の丸山公園には右資料のように富士身延鉄道(現在のJR身延線)の初代社長、小野金六(1852-1923・韮崎市出身)を称える銅像がありましたが、土台を残して戦争に供出されました。現在の記念塔は身延線開通50周年記念に建てられたものです。



絵はがき 小野金六銅像(山梨県立博物館所蔵)



現在の記念塔



●^{がくと きんろうどういん}学徒勤労動員

成人男子は戦場に行っていたため、成人女子だけでなく子どもも大切な労働力でした。“ほしがりません、勝つまでは”を合言葉に、工場で飛行機などを作ったり、農村で農作業や家畜の世話、木材を運搬したりと様々な労働が子どもたちに強制されました。昭和19年(1944)8月、学徒勤労令が施行されると中等学校以上の生徒ほぼ全員が軍需工場に動員され、身延中学校・身延高等女学校(いずれも現在の身延高校)の生徒も愛知県や神奈川県の工場で働きました。



国防婦人会(身延 上町・橋町) 昭和13年

●^{にちろ}慰問袋

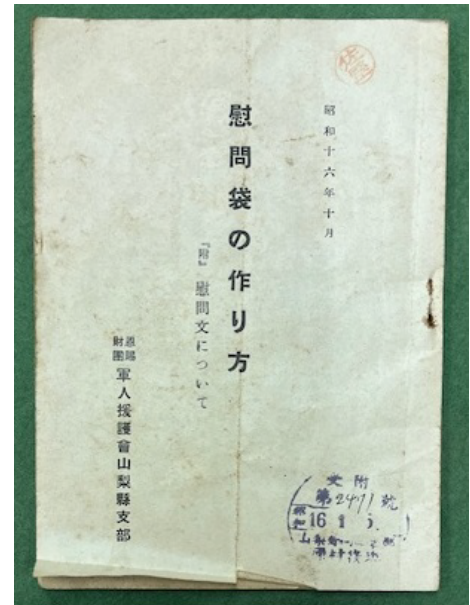
日露戦争(※)の頃から行われていたもので戦地の出征兵士などを慰め、その不便をなくし、士気を鼓舞するために日用品などを入れて送った袋。ちり紙や手ぬぐい、石鹸などの日用品や食料品、薬品、家族の写真、お守り札のほか、場合によってはお金を送ることもできました。※満州と朝鮮半島の支配権を巡る争いが原因となって、1904年2月から1905年9月にかけて日本とロシアの間で行われた戦争。



国防婦人会による防火訓練(身延 上町・橋町) 昭和13年
(画像提供: 甘養亭河喜)

●^{こくぽうふじんかい}国防婦人会

国防婦人会は1932から1942年までに活動していた女性団体で出征兵士の妻や、母親たちが多く参加しました。割烹着と会の名を墨書した白タスキを身に着けて活動し、出征の見送りや、留守家族の支援、傷病兵や遺骨の出迎え、慰問袋の調達と発送、防火訓練など活動は様々で、戦争を国民みんなで支える空気を作った団体でもあり、戦争協力の象徴でもありました。



(身延町歴史民俗資料館所蔵)

●身延山門前町で行われた防火訓練

当時は防空法によって、国民は空襲時に消火に取り組む義務がありましたが、成人男子は戦争に行っていたため、防火訓練も女性たちの大切な役割でした。

甲府空襲では焼夷弾の炎から必死に逃げる人々に向かって、消火活動に参加しないことから「非国民」とののしる声もあったそうじゃよ。



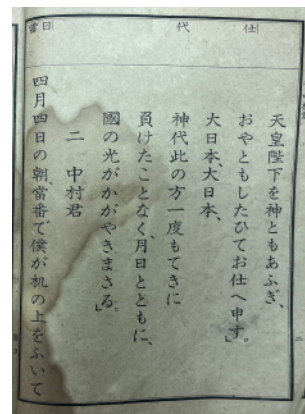
5

●戦中・戦後の教育

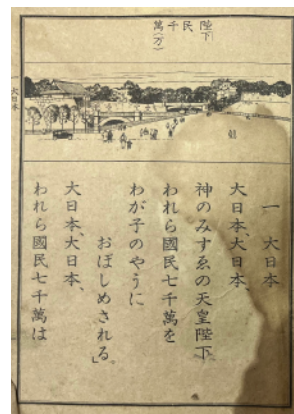
戦争中は教育勅語(※)を中心とした忠君愛国の思想が教育の柱で、修身という学科では天皇への忠誠心や日本の優越性を教え込む教育が行われ、男子生徒には武道や軍事訓練が実施されました。学校の授業は度々中断され、子供たちも勤労働員に参加し、農作業や軍需工場での作業に従事しました。東京など大都市への空襲が激しくなると学童疎開も行われ、教育の継続は困難になりました。

戦後、GHQ(連合国軍総司令部)の統治下では日本の民主化を目的として教育制度の大改革が行われ、教育勅語や修身の学科は廃止され、個人の尊重・平和主義・民主主義を柱とする教育へと転換していきました。

※明治23年(1890)に明治天皇が近代日本の教育方針として下した勅語。



大正8年(1919) 文部省発行の尋常小学校国語読本(身延町歴史民俗資料館所蔵)



勤勞奉仕で農作業に参加した久那土の子どもたち
下部町 1996『下部町戦後五十周年記念集 心に平和のとりでを』より



昭和19年(1944)9月 家族からの手紙を受け取る疎開児童『身延町誌』より

教師39名、寮母65名が疎開し、身延山門前町の旅館や宿坊に分かれて泊まりました。

●学童疎開

山梨県への学童疎開は昭和19年(1944)8月下旬から始まり、昭和21年(1946)3月まで続きました。身延町には東京都四谷区より児童1233名、



昭和18年(1943) 文部省発行の初等科国語(身延町歴史民俗資料館所蔵)
戦意高揚や天皇への忠誠を記した文章は墨で塗りつぶしたり、やぶって使用。

●旧下部小学校の楠公父子像

南北朝時代の楠木正成・正行父子が訣別する逸話“桜井の別れ”を表した石像です。楠公は天皇への忠誠の象徴的存在であり、昭和17年(1942)4月に富里国民学校(旧下部小学校の前身)に建てられましたが、敗戦後の昭和20年(1945)12月に撤去されました。



戦争末期に開発された特攻兵器“回天”の部隊名は楠公の家紋や幼名、活躍した城から名づけられたんじゃ。天皇のために死ぬことを名誉とした楠公を敬っていたことがわかるのう……。この石像が当地にいつ再建されたかは不明じゃが、戦中の軍国教育の在り様を学ぶ上で、とても重要な歴史資料なんじゃよ。

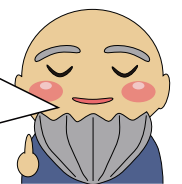
昭和20年(1945)3月10日、米軍により首都東京が空襲されると、13日には大阪市、17日には神戸市、19日には名古屋市と大都市の多くが焼き払われました。6月以降、米軍の攻撃目標は地方へも拡大し、7月6日の深夜から翌7日の未明にかけて甲府も空襲に遭いました。出撃したB29爆撃機は138機、一夜にして市街地の72%が焦土と化し、1,127名の尊い命が奪われました。



B29編隊の進入航路（山梨平和ミュージアム展示パネルより）

甲府を襲撃したB29編隊はグアム島から離陸し、上図のように静岡県御前崎から身延の上空を通過していきま^{おまえざき}した。当夜は曇^{くも}っており、身延の狭い空をB29編隊が飛んでいく轟音を聞いたり、甲府方面の空が真っ赤に燃えるのを見たという町民も多くいました。

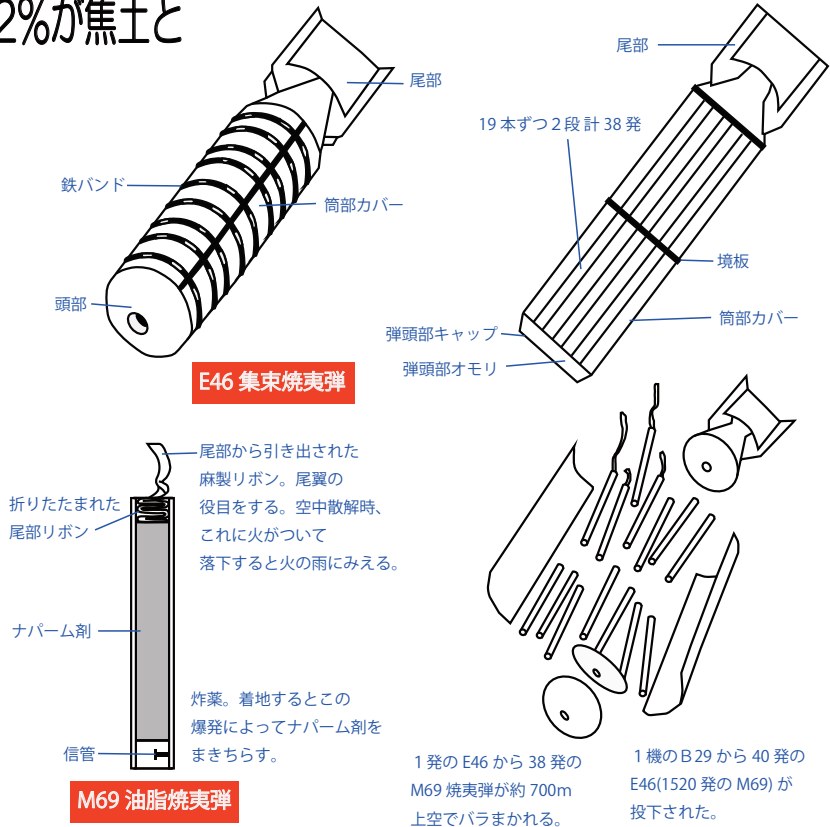
日本の都市で大空襲を受けなかったのは京都、奈良、石川、長野、新潟、山形、盛岡、秋田、札幌だけで、日本のほとんどが焦土と化してしまったんじや。当時甲府は人口10万人を超える内陸地有数の都市で、陸軍歩兵第49連隊(甲府連隊※)の兵営地などもあったから目標にされたといわれておるよ。



※大日本帝国陸軍の連隊の一つ。日露戦争終結直後の1905年、甲府市会が兵営誘致を陸軍省に上申。1909年兵営地の運用開始に伴い、甲府の軍都化が進みました。連隊の旧糧秣庫(兵士の食糧と軍馬のまぐさの保管庫)は現在、山梨大学の赤レンガ館として現存しています。



B29爆撃機と零戦の模型（山梨平和ミュージアム展示資料より）



甲府市塩部遺跡で出土した焼夷弾
(『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第123集』より)

●原子爆弾の投下

甲府空襲から1ヶ月後の8月6日には広島に、9日には長崎に原子爆弾が投下されました。この原爆での犠牲者は広島では約14万人、長崎では約7万人といわれていますが、生き残った人々も熱線や放射能による後遺症に苦しみ、結婚や医療の場面でいわれのない差別や偏見を受けました。

「ふるさとの街やかれ 身よりの骨うめし焼土に 今は白い花咲く

ああ許すまじ原爆を 三度許すまじ原爆を われらの街に」

これは身延高校を昭和25年(1950)に卒業した浅田石二が作詞した歌「原爆を許すまじ」の一節です。1954年、アメリカは太平洋のビキニ環礁で水爆実験(爆発力は広島・長崎の千倍)を行い、静岡県焼津のマグロ漁船の乗組員が放射能を含んだ「死の灰」を浴び、被爆するという事件がありました。この事件を受けて中央合唱団が歌声による核兵器反対の行動を起こし、この「原爆を許すまじ」は作られました。この歌は令和6年(2024)、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会にも大きな力を与えたといわれています。

右の写真は身延山の信行道場の近くにある“平和のいのり納経塔”じゃ。原爆で亡くなった方の慰霊のために平成5年(1993)に建てられたもので、原爆の熱線を浴びた瓦も安置されておるよ。



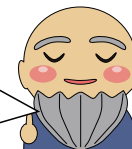
平和のいのり納経塔



●終戦

昭和20年(1945)7月26日、イギリス、アメリカ、中国の政府首脳が連名で日本に対して降伏を求める宣言(ポツダム宣言)が発せられました。この宣言には後にソビエト連邦も加わり、日本政府は8月14日にこの宣言を受託し、翌15日には戦争終結を国民に伝えるため、昭和天皇自らがマイクの前に立って、「終戦の詔書」を読み上げ、ラジオで全国に流されました。これが「玉音放送」と呼ばれるものです。

玉音放送と言えば「堪え難きを堪え 忍び難きを忍び〜」という音声を聞いたことがあるかもしれんのう。当時放送の電波状態が悪かった上に文章が難しかったから、国民には理解しにくかったそうじゃが、日本が戦争に負けたということは伝わったようじゃよ。



終戦当時のラジオ
(身延町歴史民俗資料館所蔵)

敗戦後、アメリカを中心としたGHQ(連合国軍総司令部)による日本統治が始まり、日本軍の解体や戦犯の処罰とともに憲法改正、教育改革、労働運動の自由化などの民主化政策や、財閥解体、農地改革などの経済改革の施策が進められました。昭和26年(1951)、日本と48か国による講和条約(サンフランシスコ講和条約)が締結され、翌年条約が発効されると、連合国による占領が終わり、日本の主権は回復、正式に国際社会に復帰する道が開かれました。



⑧ ※この条約を結んだときに、アメリカとは同時に日米安全保障条約を結び、アメリカ軍の駐留は続くことになりました。

●戦没者の忠魂碑・慰霊碑

町内には戦没者の忠魂碑と慰霊碑が19基残っています。忠魂碑は戦前に建てられたものが多く、慰霊碑は戦後に建てられたものが多いという特徴があります。忠魂碑は「国のために命を捧げた人々の忠義の魂」を称えるもので、明治から昭和初期にかけて全国各地の学校や寺社に建てられました。学校に建てられた忠魂碑は軍国教育のシンボルでもあったため、戦後GHQより学校から移設するよう命令されました。昭和27年(1952)、GHQの統治が終わると、各地で非戦や平和の祈りを込めて戦没者の慰霊碑が再び建てられるようになりました。

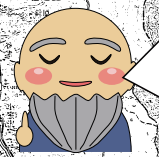


●常葉諏訪神社の護国社

昭和3年(1928)建立。
忠魂碑、慰霊碑は各村に1基以上建てられていますが、**富里村**はこの社に戦没者が祀られています。



太平洋戦争の戦没者は町全体で896名(※)という記録があるんじゃが、忠魂碑や慰霊碑には誰が・いつ・どこで・何才の時に亡くなったか詳しく刻まれたものもあるんじゃよ。
※旧身延町370人・旧中富町346人・旧下部町180人



	地区名	旧村名	所在地	碑名(題字)	年代	高さ(m)
1	西嶋	西嶋村	栄宝寺境内	殉国之碑	1953	2.8
2	寺沢	静川村	妙沢寺境内	慰霊碑	1974	2.2
3	切石	静川村	正伝寺入口	忠魂碑	不明	2.3
4	伊沼	原村	旧原小学校付近	殉國之碑	1952	3.4
5	下田原	共和村	下田原専用地	殉国慰霊之碑	1953	4.7
6	下田原	共和村	下田原専用地	忠魂碑	1931	4.6
7	中山	曙村	八幡神社境内	忠魂碑	1958	3.3
8	古長谷	曙村	旧曙小学校	忠魂碑	1914	2.9
9	飯富	原村	本成寺境内	第二次世界大戦戦没者慰霊碑	1995	2.1
10	三沢	久那土村	十五所神社境内	忠魂碑	1922	2.7

	地区名	旧村名	所在地	碑名(題字)	年代	高さ(m)
11	瀬戸	古関村	方外院境内	忠魂碑	1937	2.4
12	下山	下山村	本国寺境内	忠魂碑	1943-1957	4
13	梅平(塩沢)	身延村	了円寺境内	慰霊碑	1995	1.9
14	身延(元町)	身延村	総門付近	忠魂碑	不明	5.1
15	小田船原	豊岡村	妙正寺境内下	大東亜戦争戦没者慰霊碑	1967	2.8
16	相又	豊岡村	正慶寺駐車場	慰霊碑	1968	2.7
17	横根中	豊岡村	実教寺境内	忠魂碑	不明	2.1
18	清子	豊岡村	丸山地内集団墓地入口	清子区殉国英霊之碑	1951	3.1
19	丸滝	大河内村	大河内分館跡地	忠魂	1914	3.6

※一覧表の番号は地図の番号と対応しています。高さには台座も含まれます。



●山中幸作さん建立の慰霊塔と「甲斐の塔」

左の写真は身延町(旧中富町)中山出身の故・山中幸作さんと、山中さんが沖縄県に建てた慰霊塔です。戦後、建設会社の社員として沖縄県に渡った山中さんは、仕事の合間に各地の戦跡を訪ね、郷土山梨県人の散華の地と聞いては各所に私費を投じて慰霊塔を建てました。写真は5基建てられた塔のうちの一つで、山梨県出身の戦没者がとくに多かった八重瀬町(旧具志頭村)に、1953年6月15日に建てられた塔です。本土の他府県に先駆けて建てられた塔で、1966年11月8日に同じ敷地に建てられた「甲斐の塔(※)」には山中さんの遺業が刻まれています。

※山梨県関係の戦没者22,075柱(令和4年9月現在)を慰霊するために建てられた塔。



甲斐の塔 (沖縄県営平和記念公園ホームページより)



山中さんが建てた慰霊塔の近年の様子(右後方に建っているのが甲斐の塔)

戦争の実体験者が年々少なくなっている昨今ですが、空襲で亡くなった人、戦地で逝った兵隊、その何百万人という犠牲があって、現代の我々が生きていることを考え続けていかなければなりません。

2025年、戦後80年という節目の年に、忘れてはならない「わがまちの戦争の記憶」を受け継ぎ、平和の尊さを考えるためにも当時の歴史を再認識し、亡くなった人々に思いを馳せることが大切です。そうした想起が可能となる手がかりとして実体験者の証言や身近な戦争資料をいかに残していくか・・・未だ戦争の絶えない現代において、明日を生きる私たちの課題ではないでしょうか。

過去を知ることは、未来を考える第一歩じゃ。

